



さあ、春ですね。タカナも収穫間近となり、いよいよ今シーズンのお米づくりに向けて始動です！そして同時に、新しい時代の幕開けです！今回は農家による社会的な動きについての報告が中心となりますが、ご一読いただければ幸いです。

あの痛ましい大震災・原発事故から3年が経ちました。多くの皆さんにとって、食の安全やエネルギーの今後について認識を大きく変えた出来事だったことと思います。私たちが就農してすぐから取り組んできた、「農家がエネルギーもつくる社会」を目指した活動は、今年の3・11と3・12ではっきりとした社会的な動きとなりました。

まずは3・11。「全国ご当地エネルギー協会」なる組織をつくるための発起人総会が衆議院議員会館にて開かれました。9つの電力会社が75年に渡って独占してきた電力事業に風穴を開けようというのが協会設立の目的。私エリは九州地区の発起人代表です。

一昨年、「電力会社は再生可能なエネルギーを買い取らなければならない」という法律が日本にもできました。それ自体は大変喜ばしいのですが、利益が出るようになったので、一部の企業ばかりがメガソーラや風力発電を地方に作る、という状況を生み出しました。それじゃあ結局、地元には利益が落ちないじゃないか、ということに気づいた全国各地の皆さんが、地元市民からの出資を集めて発電や熱供給事業をしようと動いています。売電を始めているところもたくさんあります。南阿蘇でも、環境省の支援を受けながら、地元にある資源を使った「ご当地電力」の実現に向けて住民が盛り上がりつつあるところです。写真は発起人の皆さん。同じ目標に向かって各地で取り組んでいる人がこれだけいる、と思うと心強いです。



翌3月12日。全国の女性農家によるNPO法人のリニューアル記者会見を開きました。「田舎のヒロインわくわくネットワーク」という、女性農家の自主的なグループが誕生したのは20年も前。お米の輸入自由化が決まった頃です。経済性や効率だけでは語れない農業や農村の大切さを地道にアピールしてきました。創設者の皆さんが年金世代になってきたことから、思い切った世代交代を果たし、理事8人は全員、40歳以下の現役女性農家に。私が次期代表を務めることになりました。

役員の世界交代に合わせて、名称も「田舎のヒロインズ」に改名予定。発信力を重視して、副理事長にはモデル兼農家の女性（左）と、「山形ガールズ農場」を経営する女性（右）になって頂きました。会見の時には、アウトドア用品のメーカーであるモンベル社さんが、開発中の「フィールドウェア」（つまりは作業服）を貸して下さり、3人で試着。新執行部の3人が代表して、「私たち農家が食べ物もエネルギーもつくれる社会を目指しま



す」という宣言をしたところ、予想外にたくさんのメディア関係者の方に来て頂きました。

農家が本当に食べ物とエネルギーの生産者になれば、少しずつでも世の中が変わりそうな気がしませんか？



そもそもなぜ私がこういう活動に取り組むことになったかと言うと、就農する前に学生として暮らしていたドイツで、「農家が“安全な食べ物”と“美しい風景”と“次世代のエネルギー”をつくる」という社会を実際に見てきたからです。日本より四半世紀も前に、チェルノブイリ原発事故を体験しているドイツ。放射能に汚染されていない農産物を食べたい。癒しや学びの場でもある農村をきちんと守りたい。原発に頼らないエネルギーを増やしたい。そんな希望を私たちよりも先に持ったのです。そして事故後10数年がたった時の社会を、私たちは見てきました。福島原発事故の前は、できることからマイペースで始めて、目標とするドイツ農家の姿を目指していたのですが、あの大きな事故がきっかけとなって、日本でも社会的な広がりにつながってきた、というわけです。

2つの大きなイベントに続き、全くの偶然なのですが、同じテーマのシンポジウムに県知事と出演しました。東京駅の丸ビルにて「再生可能エネルギーの導入が農村を変えるか」というテーマのシンポジウム。蒲島知事は「再生可能なエネルギーは第二のくまモン」という演題で、莫大な経済効果を生んでいるくまモンを例えにしながら、再生可能なエネルギーにもそれだけの可能性があることを熱弁し、私はパネラーとして登壇。時代の流れが本当に変わり始めているように感じました。



さて、そんな一連のイベントを終えて東京から戻ると、阿蘇はすっかり春。風物詩である「野焼き」があちこちで行われています。この野焼きによって、阿蘇の草原は千年以上も保たれてきて、独特の生態系と風景を作りあげてきました。ところが最近では高齢化などの理由で野焼きができなくなってきた集落も多く、全国から集まる「野焼きボランティア」さんたちの力も借りながら、世界的に価値を認められた阿蘇の草原を守る作業が続いているところです。1、2週間もすれば、まっ黒焦げになった山肌が新芽でいっぱいになります。毎年の事ですが、感動せずにはられません。

時代の変わり目を肌で感じてワクワクしながらも、春先にやらなければいけない農作業が大幅に遅れていることに今更ながら焦っているところです。今月の発送が終わったら、遅れを取り戻すために張り切って野良仕事をしたいと思います。皆さんも春の到来を楽しんで下さいね！

